

倉敷市立美術館（同市中央）のエントランスホールを、県立大助教で気鋭のテキスタイル作家樫尾聡美さん(32)が芸術空間に変貌させる企画展示「もやのただよふ」が開かれている。コンクリート打ちっ放しの吹き抜けに色彩鮮やかな立体作品が揺らめき、美の世界への入り口を演出している。25日まで。（角南邦彦）

「もやのただよふ」展

倉敷市立美術館

テキスタイル作家  
樫尾聡美さん

「もやのただよふ」展

# ゆらゆら 幻想空間



倉敷市立美術館エントランスホールに展示した作品を見上げる樫尾さん

樫尾さんは、多摩美術大学丹下健三氏が手掛けた同美術院で布など繊維を素材にするテキスタイルデザインを専攻。布に文様をプリントした上には、けでにしみなども表現する絵画的手法を取り入れ、2014年に若手作家を育成支援する県の「I氏賞」奨励賞、今年は一岡山芸術文化賞」のグランプリを受賞。展示は、世界的な建築家

## エントランスホール 頭上にカラフル作品

エントランスホールは入場無料。月曜休館。18日午後2時から、同美術館3階会議室で、樫尾さんを講師にハンカチを染めるワークショップがある。子どもも参加でき、参加費は500円。定員は先着20人で、申し込み受け付けは2日から。問い合わせは同美術館（086-425-6034）。

「作品をつり下げること、森や海の中にいるようなつかみどころのない雰囲気を感じてもらえるのでは。建物の高い天井を見た時にそう考えた」と着想を説明する樫尾さん。

作品はドアの開閉や人の動きで生まれる微妙な空気の流れて、ゆっくりと揺れる。その様子はタイトルそのまま、もやがふわふわと漂うような幻想的な雰囲気を出す。

観光客も多く立ち寄る同美術館。佐々木千恵主任学芸員は「地元の若手作家を広く紹介しながら、より多くの人々がアートに関心を持つきっかけになれば」と話す。

面には外来種のチョウ・アカボシゴマダラや歯車をモチーフにした文様が躍る。